

空間(1)「もっとコミュニケーション」プラン タイプ1
Before After



図5 タイプ1のBefore・After

リビングキッチンをフローリング化し、そこに新たに椅子や食器棚、ベンチなどを設置することで、料理やシャワー待ちのとき等さまざまな交流の場面でより活用されるスペースを目指す。

空間(2)「ユニット化で仲良し」プラン タイプ2
Before After



図6 タイプ2のBefore・After

共用スペースをフローリング化し、そこに新たに本棚や机、椅子を設置することで、物置、洗濯物干し場から食事スペース、シャワー待ちの場への転換を図る。

空間(3)「静かになって円満」プラン タイプ4
Before After



図7 タイプ3のBefore・After

大きな1フロアを壁で隔てることでフロア人数を半減させ、騒音の減少を期待し、また話しやすい空間への転換を図る。

制度 入居の仕組みを変える
棟によって日本人と留学生の割合に大きな差があり、またとくに未回収等の留学生割合が高いという現状を考慮し、前述の3つのプランで未改修棟を改修したうえで旧未改修棟を留学生との混住のため活用する。

提案まとめ 実施後はどうなるか？
アンケート調査より、宿舎での交流に積極的な日本人または留学生とそうでない日本人または留学生に二分し、その割合から考慮される人数をまとめる。

表5 宿舎交流に対する日本人と留学生の意識の差			
	日本人	留学生	合計
宿舎交流派	958	712	1670
宿舎非交流派	616	460	1076

宿舎交流派をグローバルレジデンスとこの提案によって新たに設置される交流棟へとわりふると、前者の居室数が500室、後者の居室数が1210室なので下表のような割合において混住が達成される。このとき宿舎非交流派は日本人を一般棟へ、留学生を留学生棟へとそれぞれわりふること

とする。(図8・9参照)
表6 学生の宿舎割り振り案

	居室数	日本人 留学生	割合
グローバルレジデンス	500	287 213	57.40% 42.60%
新・交流棟	1210	671 499	57.40% 42.60%
一般棟	2251	616 168	78.60% 21.40%
留学生棟	292	0 292	0% 100%

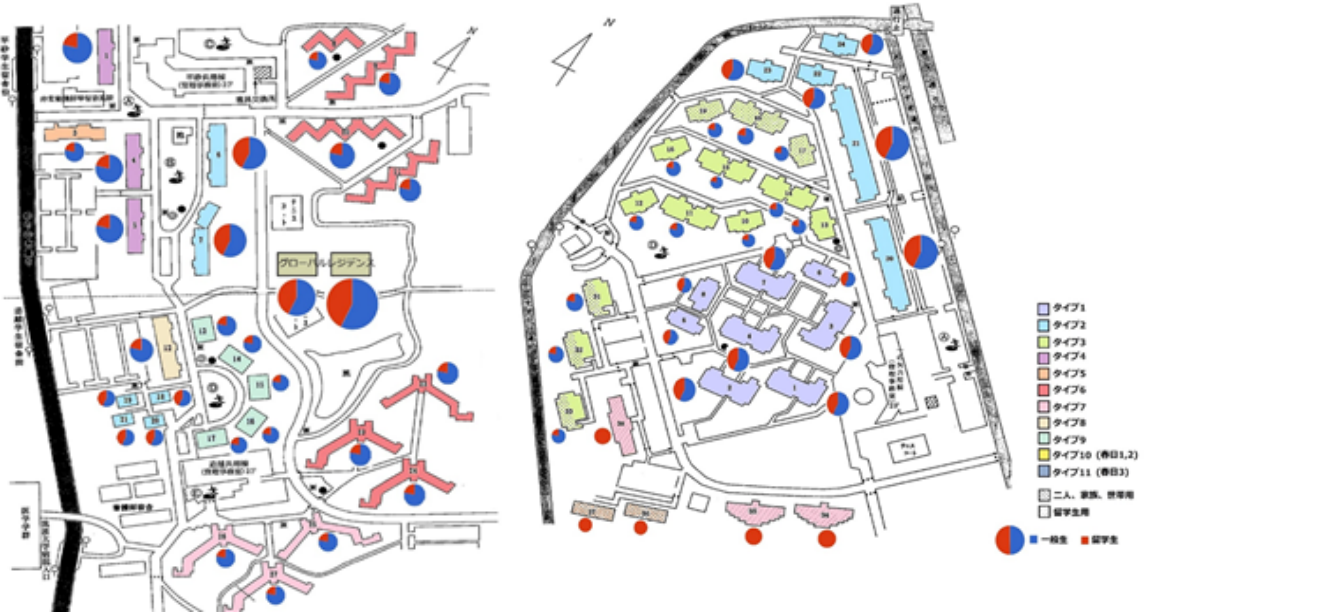
宿舎での交流に対して積極的な日本人または留学生向けにはよりコミュニケーションしやすい場を、そうでない日本人または留学生向けにもコミュニケーションを取りたいときに取れるような場をこのプランなら提供することができるはずである。

5.結論
「空間」と「制度」の両面から改善をすることで、将来、入居者同士がコミュニケーションをとり日本人と留学生が混住する学生宿舎が可能になる。

- 参考文献**
- 1) 筑波大学 平成24年度学生生活実態調査（学群）
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/h24undergrad.pdf>（2015/06最終閲覧）
 - 2) 筑波大学学生宿舎管理事務所 宿舎案内 宿舎料について
<http://www.meikei.or.jp/shukusha/service.html>（2015/06最終閲覧）
 - 3) 筑波大学グローバルレジデンス整備事業要求水準書平成27年1月8日
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/office/20150108gr8suiyun.pdf>
 - 4) リクルート2013 グローバル人材育成の場としての「国際寮」
souken.shingakunet.com/college_m/2013_RCM183_06.pdf（2015/06最終閲覧）
 - 5) ウェブマガジン「留学交流」2012年9月号Vol.18 留学生寮から真の国際学生宿舎へ：学生寮混在化のケーススタディ
<https://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/risumail/src/webmail.php>（2015/06最終閲覧）
 - 6) 東京外国語大学 国際交流 本学で学ぶ方へ 国際交流会館
http://www.tufs.ac.jp/intlaffairs/international_student/hall.html（2015/06最終閲覧）
 - 7) 国際基督教大学 学生グループ グローバルハウス
<http://web.icu.ac.jp/sag/dorm-apartment/undergraduate/globalhouse/>（2015/06最終閲覧）

謝辞
今回の実習では多くの方にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。
小林 浩様（東京外国語大学 留学生課課長補佐）
松山 龍彦様（国際基督教大学 学生サービス部学生グループ主管）
千保 卓也様（国際基督教大学 総務・法人部 管財グループ）
富田 家宏様・千鶴様（国際基督教大学 学生寮管理人）
大手 昇一様（筑波大学 学生部学生生活課専門職員）
酒井様（筑波大学 留学生センター）
オム ソンヨン様・アン チェンガン様（筑波大学 都市空間解析研究室）
筑波大学 学生生活課一同様
最後に、本実習を進めるにあたり的確な指導と助言を頂いた鈴木勉教授に感謝致します。また担当TAの安達修平さんには実習の進行を助けていただいたのみならずさまざまな意見を頂きました。班員一同、感謝しております。ありがとうございました。

図8 提案後の一般学生・留学生の学生宿舎割り振り



付録 宿舎のタイプ別平面図

